

| | | | | | |
|--|--|-----|----|------|-------|
| 学部 / 看護専門領域 / 看護の基本 科目コード : 130019 生活援助論 I Basic Nursing Skills I | | | | | |
| 担当教員 | 田村 幸恵、石川倫子、寺井梨恵子、南條裕子、中嶋知世、瀬戸清華、千田明日香 | | | | |
| 実務経験 | 担当教員全員が看護師の実務経験を基に生活援助技術に関する知識・技術を教授する。 | | | | |
| 開講年次 | 1年次前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 講義・演習 |
| 必修・選択 | 必修 | 時間数 | 30 | | |
| Keywords | 看護技術、基本的技術、安全性、安楽性、自立性 | | | | |
| 学習目的・目標 | 【学修目的】 日常生活援助に共通するコミュニケーション技術、観察技術、生活環境調整技術、活動・休息援助技術について、基礎知識を理解し、安全・安楽に実施できる力を身につけることを目的とする。 【学修目標】 1. 看護技術とは何かを理解する。 2. 基本的なコミュニケーション技術と援助関係の形成過程について理解できる。 3. 観察の意義と目的、方法が理解できる。 4. 看護技術としてのボディメカニクスの基本原則が理解できる。 5. 生活環境を整える目的を理解し、環境の調整・整備が実施できる。 6. 活動の意義と活動制限による弊害を理解し、体位変換、移送・移乗が実施できる。 7. 休息の意義と睡眠の阻害要因、援助方法について理解できる。 | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 回 | 内容 | | | | |
| 1 | ガイダンス 1) 看護技術とは 2) 基礎看護学実習室オリエンテーション | | | | |
| 2 | 観察技術 1) 看護における観察と目的 2) 観察の方法 3) 観察のプロセス | | | | |
| 3-6 | 看護コミュニケーション(1)(2)(3)(4) 1) 看護実践における対人関係 2) 基本的なコミュニケーション技術 3) 援助的関係の形成過程 4) チームで関係形成するためのコミュニケーション技術 | | | | |
| 7-8 | 生活環境調整技術(1)(2) 1) 生活環境を整える意義、居住環境の諸要因と調整方法、病室と病床の環境調整 2) 病室・病床環境の整え方の実際（ベットメイキング） | | | | |
| 9-10 | 活動・休息援助技術 (1)(2) 1) 良い姿勢と体位、ボディメカニクス 2) 活動の意義、活動制限による身体への影響、活動のアセスメントの視点 3) 体位変換 | | | | |
| 11-12 | 環境調整技術(3)(4) 1) 病室・病床環境の調整技術 2) 臥床患者のシーツ交換 | | | | |
| 13-14 | 活動・休息援助技術 (3)(4) 1) 活動の援助技術（歩行援助、車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送） | | | | |
| 15 | 活動・休息援助技術 (5) 1) 転倒・転落の要因、予防方法 2) 休息・睡眠の意義、睡眠メカニズムと阻害要因、睡眠を促す援助 | | | | |
| 教科書 | 茂野香おる編集：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I，医学書院 任和子編集：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II，医学書院 | | | | |
| 参考図書等 | 任和子，秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（第3版），医学書院 | | | | |
| 評価指標 | 課題内容・提出状況20%、筆記試験80%で評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 看護学概論、感染管理学、生活援助論II、フィジカルアセスメント、看護過程論、診療補助技術論I・II、基礎看護学実習I・II、解剖生理学、解剖生理学実習 | | | | |
| 教員から学生へのメッセージ | 日常生活援助に共通する看護技術を、基礎知識に基づいて安全・安楽に実施できる力を身に付けましょう。ここで学ぶ看護技術は、生活援助論IIの学習にも積み重なる内容です。知識・技術の習得のために、課題（事前学習・事後学習）に主体的に取り組んでください。講義や演習だけでなく、自己練習も必要となります。 | | | | |